

# OfByForコラム 地域の 地域による 地域のための Something NEWS

## 第③回

# 地域の農林水産品で、能登を元気に！

一般社団法人 光楓座  
一般社団法人 e f c o . j p

代表理事

佐藤建吉

### 能登の現地視察

昨年12月に石川県の能登半島に行く機会を得た。羽田を朝立ち飛行機で眼下の白く雪で覆われたアルプスを越えると60分、のと里山空港に到着した。雪があるかと思

い厚着をしたが、晴天で温かく感じる海辺の景色の中に身を置いた。仲間

は、全員で10人。埼玉県春日部市で大型の温泉施設を所有する会社が、能登の農林水産品を首都圏に提供し、能登と春日部の双方の地域活性化を進めている。その一環の、現地視察旅行の中の一人として参加させて頂いた。

能登半島は「能登の里山里海」として2011年6月に、ユネスコの世界農業遺産の認定を受けており、「棚田やため池で形成される里山の景観と、海女漁、揚げ浜式製塩など、里海の資源を活用した伝統技術が受け継がれている。農村の暮らしと結びついた風習や文化も多岐にわたる」とされている。

今回の視察旅行では、実際に能登で、牡蛎の養殖現場と生産者、定置網の漁師、輪島の朝市と朝市代表者、長辛の生産地と生産者、竹材チップによる発酵熟を利用した黒ニンニク製造と開発者、千枚田のイルミネーション、能登牛の生産地、さらには伝統的な御陣乗太鼓の演者、輪島キリコ会館などを訪問した。宿泊したのは、輪島塗で仕上げられた輪島ならではの民宿で、初めての体験であった。

これらの視察・体験のほか、有名な高級旅館・加賀屋や、月刊誌「コロンプス」の古川猛編集長が輪島に設置した地域交流館にも立ち寄った。また、輪島市役所の関係部長、石川県奥能登農林総合事務所の所長・部長を訪問し、意見交換を行った。世界農業遺産の認定や北陸新幹線の開通により観光客の入り込みも増え、能登や輪島も人気になっているが、人口減少や高齢化による農林水産業の後継者不足などの課題がある。

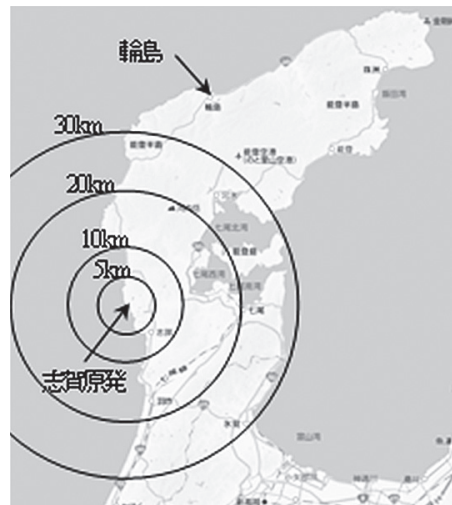
### 能登を元気にする

民間の立場で、地方と首都圏をつなぐビジネスとして、能登の活性化と持続可能性確保に貢献しようとしている。具体的には、能登の牡蛎、定置網での多種多様なサイズの活魚、長辛など農水産品を直送する物流・販売システムを構築する計画がある。能登牛を増産する現地体制の整備などは、役所と相談し計画する。また、竹チップの発酵熟で手付かずの竹材を活用する。これは千葉県にも技術移転させようとして

### 残る課題は原発

能登は、日本海に細長く屈曲して北へ突き出した半島である。突き出した部から、北に口能登（くちのど）、中能登、奥能登と呼ばれる。今回は、中能登（七尾市）と奥能登（輪島市）を訪ねた。

原発や地震に対するリスクに対して、原発事故を想定した避難演習やシミュレーションが、中能登でも行われた。原発事故、特に放射能飛散事故が起これば図のように、半径30km程度の範囲にあり、奥能登は孤立する。金沢大学の避難時間のシミュレーションでも、広域の避難になると、渋滞が起き避難時間が長くなる。雪の季節、台風や豪雨強風の日、夜間、さらに道路が寸断した場合などでは、避難困難に陥り人災となる可能性が高い。原子力規制委員会の新規則基準での合格認定では、新たにシビアアクシデント対策として航空機の衝突やテロなどの可能性も対策要件にあるが、困難さも残る。耐震・耐津波性能の強化も活断層や日本海に面しており、不測の事態が起り得る。私の心配のタネは、機器メンテナンスにおけるヒューマンエラーであ



志賀原発からの半径エリア

それから10年経ち、いまやつと復興した。

原発の部品は1000万点を超えるという、その部品の接合部や結合部は、隠れて見えない箇所が普通であり、応力集中の巣でもある。沸騰水型原発では、放射能を帯びた蒸気や復水が流れる。定期検査における保守点検への設計指示は大丈夫だろうか？

原発の直接・間接の発電コストは、3・11以降の事故対策経費で増々高額となった。先週は、東芝の原子力事業での大幅な損失発生がニュースになった。メルトダウン発生リスクや高コストにより原発は、もはや失速が明確となった。

大事故の可能性のない再生可能エネルギーへのエネルギーシフトが必須である。

原発での雇用でなく、地域の資源を活かして雇用や生計を維持する方法は、ここで述べたようにいくらでもある。民間の事業者が行う地方の元気づくりには、私も関わること感謝したい。

穴水湾での牡蛎養殖



輪島では、2007年3月25日、半島沖合40kmの日本海を震源とするM6・9の能登半島地震が発生、輪島市は震度6であった。

志賀原発である。1号機と2号機があるが、いずれも現在は稼働していない。志賀原発は、活断層が通っている可能性が高い。

奥能登から首都圏へ陸路で物資輸送する時には、中能登を通るようになる。「のと里山海道」や「能越自動車道」などの高速道路がこの物流の幹線となるだろう。ところが、私が不安を感じるのは、「のと里山海道」の近くにある北陸電力の志賀原発である。1号機と2号機があるが、いずれも現在は稼働していない。志賀原発は、活断層が通っている可能性が高い。

輪島では、2007年3月25日、半島沖合40kmの日本海を震源とするM6・9の能登半島地震が発生、輪島市は震度6であった。